

武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備委員会本部会の概要

回数（作成課）	第6回本部会（武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備室）
日時	令和8年1月28日（水） 17時30分～19時45分
場所	武蔵浦和コミュニティセンター 第8・9集会室
出席者	内谷中学校長、浦和別所小学校長、西浦和小学校長、辻小学校長、沼影小学校長、浦和大里小学校長 家庭からの参加者2名 地域からの参加者5名 日本体育大学教授（学識経験者） 教育長、副教育長、管理部長、学校教育部長、生涯学習部長、武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備室長、学校施設整備課長、学事課長、生徒指導課長、総合教育相談室長、健康教育課長
議事	1 意見交換（校名の絞り込み） 2 各ワーキンググループからの報告 （1）学校事務運営より（内谷中学校校舎改修に関する見学会について） （2）通学区域より（通学区域等について） （3）保健室運営より（活動報告及び今後の見通しについて） （4）学校生活より（学校生活のきまりについて、S o l a る一む・さわやか相談室について） （5）校名・移行イベントより（レガシースペースについて） 3 学識経験者より 4 その他 （1）令和8・9年度の開校準備委員会組織と参加者構成スケジュールについて

○教育長挨拶

開校準備委員会本部会の2年間の活動において、参加者の熱意と行動力により活発な意見交換ができていくことへの感謝を伝えた。また、入札不調への具体的対応として公告期間、入札参加条件、発注方法の見直しに加え、適正な予定価格の設定、工期設定の見直しを行うことや、次年度早々に入札公告を実施予定であると説明した。また、開校時期については、無事に入札が終わり、工事のめどが立ち次第、改めてお示しすることを伝えた。

1 意見交換（校名の絞り込み）

（武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備室長からの説明）

- ・今回は、校名・移行イベントワーキンググループ（WG）で10案に絞り込まれた校名案を、本部会として5案程度に絞り込むことを説明した。絞り込み結果等を基に教育委員会でさらに検討し、最終的に1案にした上で学校設置条例案として市議会へ提出する予定であることを説明した。また、検討の途中経過は次年度の本部会で報告することを説明した。
- ・今回の校名の絞り込みにあたっては、これまでの校名・移行WGで挙げた意見を参考にしつつ、特に「選定基準」の「地域性があり、将来にわたって愛着が持てること」に着眼して絞り込んでいくことや、

開校準備委員会で意見交換を行ってきた本義務教育学校の「未来の姿」も、校名案絞り込みの拠り所としてほしいと説明した。

#### (各グループによる絞り込みの意見交換内容)

##### (Aグループの意見交換内容)

上位案として『武蔵浦和学園』、『むさし浦和』、下位案として『武蔵うらわ』、『武蔵浦和みらい』、『武蔵浦和』を絞り込んだ。

駅名のみならず、本地域を指す言葉として広く通用している「武蔵浦和」を入れることで、子どもたちや地域の人々が親しみや愛着を感じるというAグループ内での共通認識があった。

その上で、『武蔵浦和学園』については、学園という語が学び舎を連想させるという意見があった。「さいたま市立武蔵浦和学園義務教育学校」という名称も分かりやすい、語感や文字面のよさもあるという意見があった。

『むさし浦和』については、「武蔵浦和」に対する愛着を保持しつつ、ひらがなを使うことで柔らかさや親しみやすさ、読みやすさが出るという意見があった。小学校低学年を含む子どもたちにとって分かりやすい表記となるのでは、という意見があった。

『武蔵うらわ』については、柔らかく親しみやすい印象があるという意見があったが、その一方で、「浦和」は漢字の方がよいのではないかという意見もあった。

『武蔵浦和みらい』については、子どもたちが学ぶ学び舎において「未来を切り拓く」イメージがあっただけではないか、「みらい」をひらがなにすることで柔らかく、全ての子どもがイメージしやすいという意見があった。

『武蔵浦和』については、「武蔵浦和」という名称に対する愛着が強いこと、地域とのつながりや親しみがあるといった意見が出た。

##### (Bグループの意見交換内容)

上位案として、『武蔵浦和』、『武蔵浦和学園』、下位案として『むさし浦和』を絞り込んだ。

駅名のみならず、本地域を指す言葉として広く通用している「武蔵浦和」を含むことで地域性が高く誇りを持つことができるという意見があった。

その上で、『武蔵浦和』については、文字面がよいこと、駅名と同様の表記の方が地域の人への周知がしやすく、自然で親しみやすい名称と受け止められるなどの意見があった。

『武蔵浦和学園』については、「学園」の語感がよく、「学園生」などと略して呼びやすく、親しみやすいのではないか、また、駅名が入っているので周知しやすい、認知のしやすさがある、などの意見があった。一方で、市立学校として「学園」の名称に特別感が生まれ、差別化になってしまうのではないかという点については慎重に考える必要があるという意見もあった。

『むさし浦和』については、ひらがなの読みやすさや親しみやすさがあるという意見があった。一方で、さいたま市立と合わせるとひらがなが多いと幼い印象になるという意見も出された。駅名では漢字表記となっており、ひらがなでは違和感を与えるのではという意見も出た。

### (Cグループの意見交換内容)

上位案として、『武蔵浦和』、『武蔵浦和みらい』、下位案として『武蔵みらい』、『武蔵うらわ』を絞り込んだ。なお、武蔵浦和駅周辺地区の義務教育学校の略称として使いやすいなどの理由から『武蔵浦和学園』という校名案は、通称として使用してもよいのではないかという意見も出た。

「武蔵浦和」の漢字表記は、地域の認知度、愛着度が強く、場所をイメージしやすいというCグループ内での共通認識があった。

『武蔵浦和』については、駅名のみならず、本地域を指す言葉として広く通用しているものとして認知度が高く、地域性が強く表れる、義務教育学校が地域に根差した学校として理解されやすいなどの意見があった。

『武蔵浦和みらい』については、「未来の姿」から想起できる、「武蔵浦和」という言葉を残しつつ「未来」への願いを込められる、「みらい」をひらがなにすることで柔らかさが出るなどの意見があった。

『武蔵みらい』については、「みらい」表記の軽やかさや柔らかさが「未来の姿」にある「伸びやか」や、「可能性」といった言葉を想起させるということが意見として出たが、「武蔵浦和」をそのまま入れた案より下位とした。

『武蔵うらわ』については、柔らかさや親しみやすさがあるといった意見があったが、漢字表記の『武蔵浦和』の校名案より下位とした。

### (開校準備委員会本部会全体での絞り込みのための意見交換)

『武蔵浦和学園』については、A・Bの2グループが上位案として挙げていたことから上位案として残すこととした。

また、『武蔵浦和』についてもB・Cの2グループが上位案として挙げていたこと、さらにAグループの下位案としても挙がったことから、絞り込みの上位案とした。

理由として、「武蔵浦和」は駅名のみならず、本地域を指す言葉として広く通用しているものであり、将来的にもその名称が変わる可能性が低いこと、このことから、「地域性があり将来にわたって愛着が持てること」の選定基準に合っていること、『武蔵浦和学園』は、同様に選定基準に合っていること、義務教育学校としての一貫性や継続性を象徴している、教育理念のまとまりを象徴するような名称になることなどが挙げられた。

次にCグループが上位案として挙げ、Aグループが下位案とした『武蔵浦和みらい』について意見交換を行った。Bグループからは、「みらい」というイメージを表現する言葉が校名に入ると、学校教育目標などがそのイメージに縛られる可能性があるため、そういったイメージを表現する言葉は学校教育目標に盛り込んだ方がよいのではないかと意見が出された。一方、Cグループからは、「未来の姿」の「すくすく伸びやかに」、「子ども一人一人の可能性が広がる学校」などのイメージを想起させる校名なのではないかという意見があり、『武蔵浦和みらい』を絞り込みの下位案とした。

次に、「武蔵」をひらがな表記とする『むさし浦和』について、Aグループが上位案、Bグループが下位案としているが、ひらがなは柔らかく、子どもにとって書きやすく親しみやすいとの意見が出された。一方で、さいたま市がひらがな表記であることから、ひらがなが続く校名は避けた方がよいのではないかという意見や、漢字表記の方が全体のバランスがよいという意見もあり、『むさし浦和』の案は絞り込みの下位案とした。

「浦和」をひらがなとする『武蔵うらわ』についてはA、Cの2グループが下位案としているが、漢字の方が一般的で違和感が少ないこと、ひらがなでも親しみやすさはあることと賛否両論が出された。2グループから提案されていることを踏まえ、こちらを絞り込みの下位案とした。

以上の意見交換より、最後に『武蔵浦和』、『武蔵浦和学園』の2案を上位案、『武蔵浦和みらい』、『むさし浦和』、『武蔵うらわ』の3案を下位案として開校準備委員会の意見交換の結果とすることとして参加者全員で共有された。

## 2 各ワーキンググループからの報告

### (1) 学校事務運営より（内谷中学校校舎改修に関する見学会について）

（学校施設整備課長からの説明）

本義務教育学校の開校後、義務1～4年生が使用する予定の内谷中学校の校舎について、中学生との体格差や教育課程の違いを踏まえた改修を行うことを予定している。改修に先立って、実際に使用することとなる学年の児童の声を把握し改修に反映することを目的として、令和8年度内に校舎の見学会を行うことを説明した。

（参加者からの主な質問・意見）

○児童の募集対象は沼影小学校だけか。

→学校施設整備課長からの回答

沼影小学校の児童を募集対象と考えているが、他の学校の児童についても意見を伺いながら検討していく。

○「見学会」という名称では、児童の声を聞くという目的だと認識しづらいのではないか。意見聴取会、校舎探検などとし、「見学会」はサブタイトルにしてもよいのではないか。

○意見を聴取する目的もあるならば「見学会」という名称ではない方がよいのではないか。

### (2) 通学区域より（通学区域等について）

（学事課長より説明）

通学区域WG、本部会での複数回の意見交換を経て通学区域「WG案」を作成したこと、内容として、C2・D2エリアは小学校1年生段階から義務教育学校を選択可能な特定地域とする案や、子どもたちがより安全に通学できるよう、浦和大里校舎と内谷校舎との通学について田島通りを境に区切る案としたこと、今後は通学路の設定や通学方法についての意見交換を行っていくと説明した。

（参加者からの主な質問・意見）

○JR中浦和駅からJR武蔵浦和駅間を電車通学してよいのか。

→学事課長からの回答

現在WGからそういった要望はないが、今後通学方法を検討していく際の参考にさせていただく。

○遠いところから通学してくる子どもの負担などを考える際には、実際に現地を歩いてみてもよいのではないか。

→学事課長からの回答

実際に通学区域となりうる範囲を次年度のWGで歩いてみて、危険箇所を点検しながら通学路

について検討していく。

○今回のWG案で示された範囲外の学校の通学区域についても併せて変更する考えはあるか。

→学事課長からの回答

本義務教育学校の通学区域の検討のタイミングに合わせるということではなく、さいたま市全体を俯瞰して検討しているところ。今回はあくまで本義務教育学校の通学区域についての案であり、WG案の範囲外の通学区域についても併せて変更する検討はしていない。

### (3) 保健室運営より（活動報告及び今後の見通しについて）

（健康教育課長からの説明）

これまでのWGの報告として、保健室に必要な物品、保健室運営計画、学校安全計画等についての意見交換を行ったほか、新設沼影校舎の納入物品案について先行事例等を参考に作成していることを説明した。また、内谷校舎で児童の体格に合わせた備品検討が必要であり、他WGと情報共有して対応していくこと、健康診断の実施時期なども他WGと連携して調整していくことを説明した。

（参加者からの主な質問・意見）

○保健室納入物品について、大規模災害などを想定した意見交換はなされているのか。

→健康教育課長からの回答

今後防災の視点も取り入れるなど防災面について、他のWGとも情報共有しながら意見交換を進めていきたい。

○複数の校舎に養護教諭が配置されると思うが、緊急時の他校舎からの応援体制などどうなるのか、「リーダー」のような役割を置くのかなど、事前に指示系統や体制を整理する必要があるのではないか。

→健康教育課長からの回答

緊急事態を想定した事前の準備は重要である。今後、各所管と連携を取りながら、人数など具体的な方向性を定める際に合わせて、組織体制や計画を具体化していく。

### (4) 学校生活より（学校生活のきまりについて、S o l a る一む・さわやか相談室について）

（生徒指導課長からの説明）

これまでのWGの報告として、関係小・中学校の生活のきまり・校則を参考に、義務教育学校としての望ましいあり方について意見交換を行ったこと、細かく定められた校則とシンプルな校則それぞれの特徴や利点を比較しながら議論を深めたことなどを説明した。

（総合教育相談室長からの説明）

これまでのWGの報告として、さわやか相談室・S o l a る一むについて、市立学校の実態や先進事例を共有し意見交換をしたこと、今後は他自治体事例も参考に意見交換を進めることを説明した。

（参加者からの主な質問・意見）

○制服の着方に関するきまりは、ジェンダーについての配慮など、よく意見交換を行ってほしい。

○多くの子どもが利用することも想定されるS o l a る一むの配置や運用など、どのようにしていくかについても、よく検討して行ってほしい。

○Solaraの一むは居場所として大変重要であるが、教室で他の子どもと一緒に学べることも大変重要であり、その大切さも伝えてほしい。

#### (5) 校名・移行イベントより（レガシースペースについて）

（武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備室長からの説明）

これまでのWGの報告として、開校前年度に児童生徒へ資料を配布し、児童生徒の意見やアイデアを取り入れた上で、各校で残したいゆかりの品々を選定すること、設置場所案などを説明した。

（参加者からの主な質問・意見）

○レガシーとなるものは多く、大きなものについては全て保存が難しいと思う。そういったものは写真保存等も含めて整理してほしい。

### 3 学識経験者より

約 140 名が参加する大規模な開校準備委員会に関わらせていただき、地域の熱意と関係者の真剣さを強く実感した。この開校準備委員会の形式は、私が今まで参加した従来の有識者会議とは異なり、委員としての立場ではなく事務局席に近い位置で参画する構造で、私自身も全ての意見交換に直に関わることができた点に特徴があった。議論は回を重ねるごとに深化し、今回の校名の絞り込みでは本音の意見が交わされ、その中でさらに参加者間のやり取りが活性化していった。

専門の組織運営論の観点からは、この委員会は「目的の共有」「協働意欲」「コミュニケーション」という組織存続の三要素を着実に備えていったと思う。特に、140 名規模にもかかわらず、途絶えることなく本部会とワーキンググループ間で情報が伝達されている点がとても優れている。事務局は異動で職員が変わる一方、地域の関係者は地域に根差して長く継続して関わるができる。長期的な情報の継承者として、地域の参加者が果たす役割は非常に大きい。この開校準備委員会に参加する皆様は、長年にわたり地域と子どもの未来に真摯に向き合ってきた大変貴重な存在である。

最後に、この2年間、会議が良質な意見交換の場として成り立ったのは、会長の丁寧で粘り強いファシリテーションの力によるものだと感じ、改めて敬意を表したい。以上を踏まえ、感謝の気持ちを込めて2年間の総括とした。

### 4 その他

#### (1) 令和8・9年度開校準備委員会組織と参加者募集スケジュールについて

（武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備室長補佐からの説明）

・10月開催の第5回本部会で報告した令和8・9年度の開校準備委員会の組織、及び参加者の募集について、具体的なスケジュール・応募要件・募集期間・その後の決定までの流れなどを説明した。